

活版印刷ブーム再燃!

個人のお客様にも使い勝手◎

100gのチューブ入りインキ

印材舎

印材舎（世田谷区代沢、朝生公章社長、03・3412・3011）は、大正12年（1923年）創業の印刷インキメーカーである。

元々は書籍用活版インキの専門メーカーとして起業。オフセット印刷の発展につれ、活版インキの需要や取扱いメーカーが少なくなる中で、今なお、墨インキや各種中間色はもちろん、プロセス色や金銀蛍光色に至るまで、幅広いラインナップを取揃えている。特に同社の墨インキは、漆黒性に富み、多くのお客様から高く評価されている。

一時は絶滅した！とも言われた活版印刷が見直される今、ビジネスユースではなく個人レベルで静かなブームを起している。最

【墨 シリーズ】

活版用AP墨：標準タイプの活版インキ  
活版用AP DR墨：速乾タイプの活版インキ

【基本色・中間色 シリーズ】

黄・紅・藍・橙・草・紫・茶・赤・金赤・群青・紺藍・浅葱・白・バイオレット・グリーン・マゼンタ・ピンク

【特別色 シリーズ】

ゴールド・シルバー・プラチナムシルバー・蛍光オレンジ・蛍光ピンク・蛍光グリーン

【特練シリーズ】

お客様のご要望のインキを調合いたします。



個人にも使いやすい100gのチューブ製品



多彩な色をつくり出す現場

近、「大人の科学マガジン」から発売された『小さな活版印刷機』は予約販売で完売したり、川越にある小さな活版印刷所を舞台にした、ほしおさなえ氏の「活版印刷三日月堂」シリーズが10万部を超えるベストセラーになっている。また、活版印刷に関連した各地の展示会やフェアも超満員の盛況となっており、活版印刷への関心の高さが窺える。

しかし、一般に印刷インキは1kg（缶）でのデリバリが標準で、個人のお客様には量が多く、インキヘラも使い難い。そこで、同社は、個人向けに100g「チューブ」入りの製品販売を開始した。ホームセンターやDIYショップに手軽に置いていただける大きさで、インキの取扱いに不慣れなお客様にも無駄なく簡単に使用可能だ。DICカラーガイドやパントンカラーガイド、刷り見本やインキ現物（肉見本）のご用命も承っている。